2024年3月期 第2四半期
決算説明会

株式会社立花エレテック

証券コード：8159

01 会社概要

02 決算概要（2024年3月期 第2四半期）

03 業績予想（2024年3月期）

04 株主還元/株式情報

05 新中長期経営計画
「NEW C.C.J2200」

06 トピックス

01 会社概要

会社概要

社名	株式会社立花エレテック	証券コード	8159 (東証プライム市場)	
創業	1921（大正10）年９月１日	発行済株式数	25,025千株	
本社所在地	大阪市西区西本町 1-13-25	株主数	18,227名	
代表者	代表取締役社長　布山尚伸	大株主	三菱電機	7.67%
資本金	58億74百万円		サンセイテクノス	6.43%
従業員数	単体 856名（連結 1,432名）		従業員持株会	4.62%
連結売上高	2,272億66百万円 <23年3月期>		三菱UFJ銀行	4.32%
事業内容	産業用電機・電子の商品、システムを販売する技術商社		きんでん	3.01%

<2023年9月末現在>

国内営業拠点

国内 **19** 拠点

子会社 **6** 社 **29** 拠点

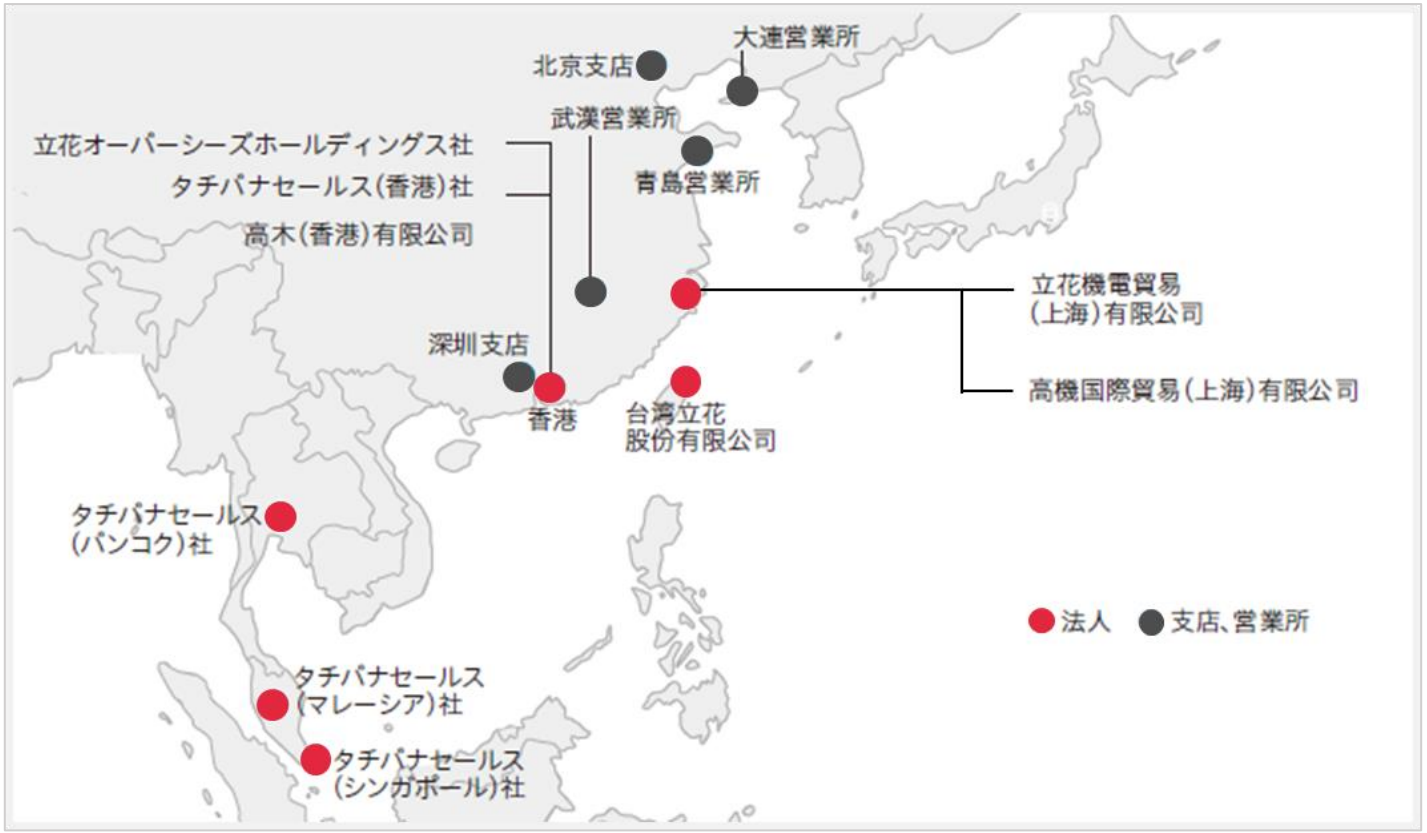
- 研電工業(株)
- (株)立花宏和システムサービス
- (株)大電社
- (株)立花デバイスコンポーネント
- (株)高木商会
- (株)立花電子ソリューションズ

<2023年４月１日現在>

海外営業拠点

海外子会社 9 社　合計 14 拠点

- 立花ｵｰﾊﾞｰｼｰｽﾞﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ社（TOH）
- タチバナセールス(シンガポール)社
- タチバナセールス(香港)社
- 台湾立花股份有限公司
- 立花機電貿易(上海)有限公司
- タチバナセールス(バンコク)社
- タチバナセールス(マレーシア)社
- 高木(香港)有限公司
- 高機国際貿易(上海)有限公司



<2023年４月１日現在>

※ 14拠点には、子会社 (株)高木商会の２拠点を含む

沿　革

1921年 9月
電気関係製品の卸売業と電気工事業を
目的として創業

1944年 8月
電気工事部門が母体となり
近畿電気工事㈱（現きんでん）設立

2001年 9月
- ㈱立花エレテックに商号変更
- 創業80周年

2005年 3月
東京証券取引所・大阪証券取引所市場
第一部に指定

2021年 9月
創業100周年

2022年 4月
東京証券取引所 プライム市場に上場

事業ドメイン

ＦＡシステム事業

ＦＡ機器部門
プログラマブルコントローラー、インバーター、ＡＣサーボ、
各種モーター、配電制御機器

ＦＡシステムソリューション部門
生産設備を監視・計測・制御するシステム構築とソリュションの提供、
ロボットシステムの販売

産業メカトロニクス部門
産業用ロボット、放電加工機、レーザー加工機、３Dプリンター

産業デバイスコンポーネント部門
コネクター、エンベデッド機器、産業用パソコン、タッチパネルモニター

半導体デバイス事業

半導体（マイコン、ＡＳＩＣ、パワーデバイス、メモリー、アナログＩＣ、
ロジックＩＣ）、**電子デバイス**（メモリーカード、密着イメージセンサー、液晶）

施設事業

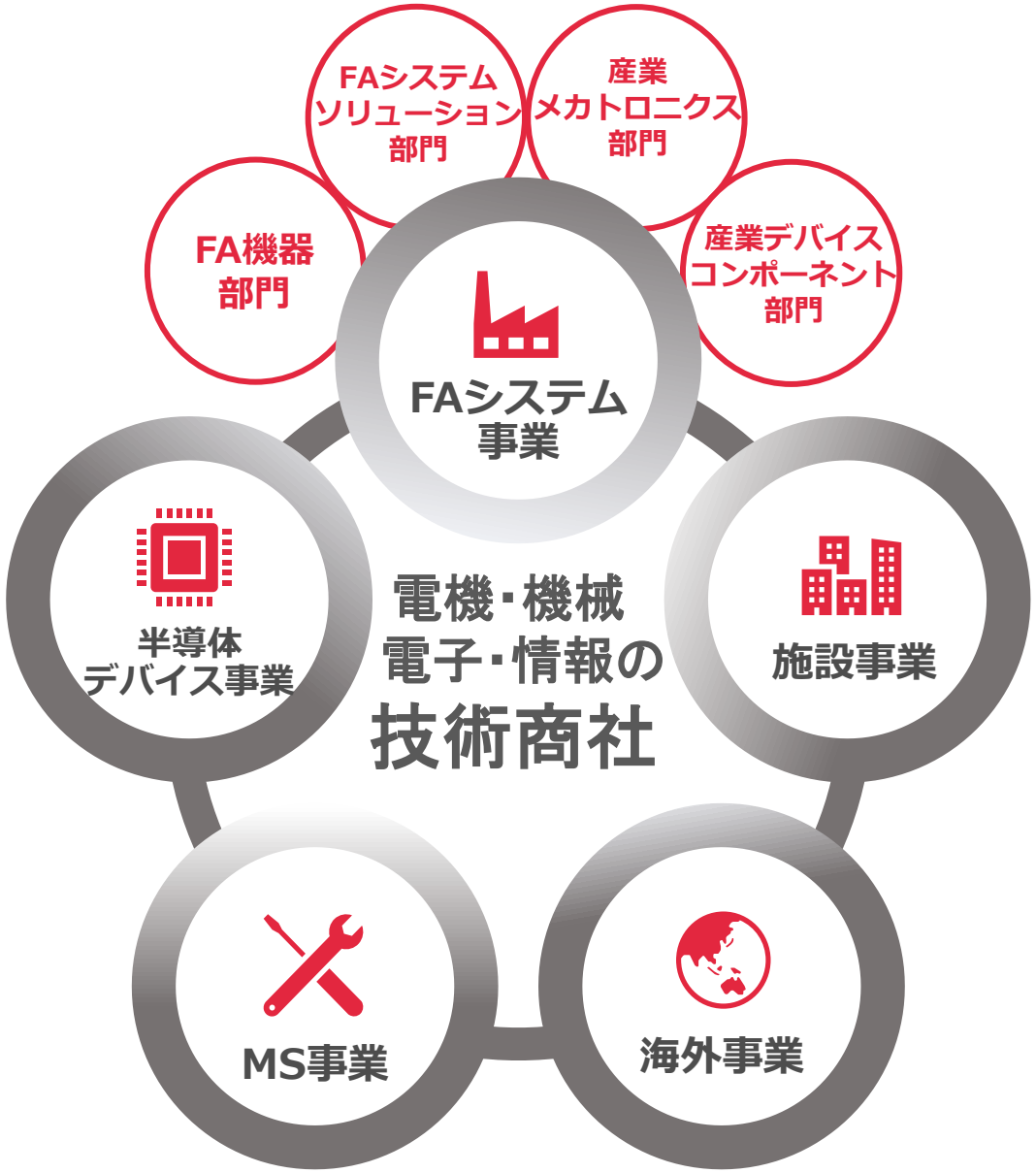
パッケージエアコン他空調機器、ＬＥＤ照明、太陽光発電システム、
オール電化機器、ルームエアコン、昇降機、受変電設備機器、監視制御装置

ＭＳ事業

（EMS）電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託
（MMS）立体駐車場・流通向けラック用金属部材の加工・製造受託

海外事業

（中国やASEAN向け）各種半導体、FA機器、放電加工機、レーザー加工機



電機・機械・電子・情報の技術商社

製品 と 技術 をトータルで提供する“技術商社”

幅広い
優れた製品

＋

提案・開発力と調達力
アプリケーション
エンジニアリング・サービス

＝

提案

幅広いパートナーやベンダー

豊富な技術者 と 高い技術力
（200余名の技術者）

幅広い製品 をラインアップ

技術商社としての当社の強み

- 他社に先駆け、1970年代半ばから標榜
- 従業員全体の約４分の１が技術者
- ソリューション営業の専任組織を設置
- 工場内の制御技術からITソリューションまでをワンストップで提供
- 常設の展示場＆ラボルームで試作も可能
- ロボットスクール、技術Webinarの参加者増加

02 決算概要
（2024年３月期 第2四半期）

連結の決算概要

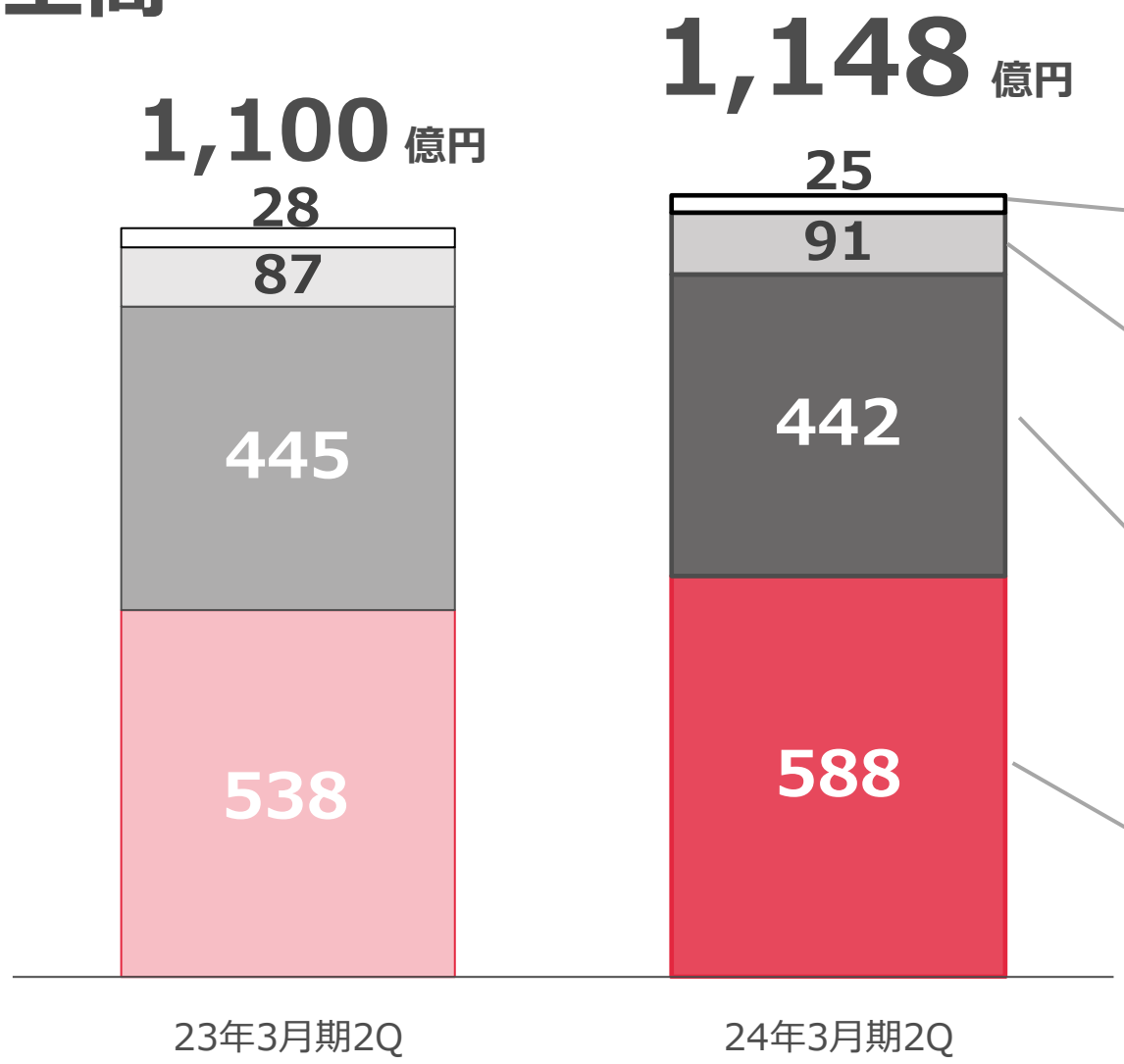
全項目第2四半期として過去最高を更新!

	2023年３月期 第2四半期	2024年３月期 第2四半期		前年比
売　上　高	1,100億円	1,148億円	（＋48 億円）	104.3 (%)
営　業　利　益	48	57	（＋9 ）	120.3
経　常　利　益	58	65	（＋7 ）	113.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	45	（＋4 ）	109.1

※:(　　)内は対前年増加額

連結のセグメント別売上高　(2024年3月期 第2四半期)

売上高



前年同期比 104.3 %

ＭＳその他
91.2 %

施設事業
104.2 %

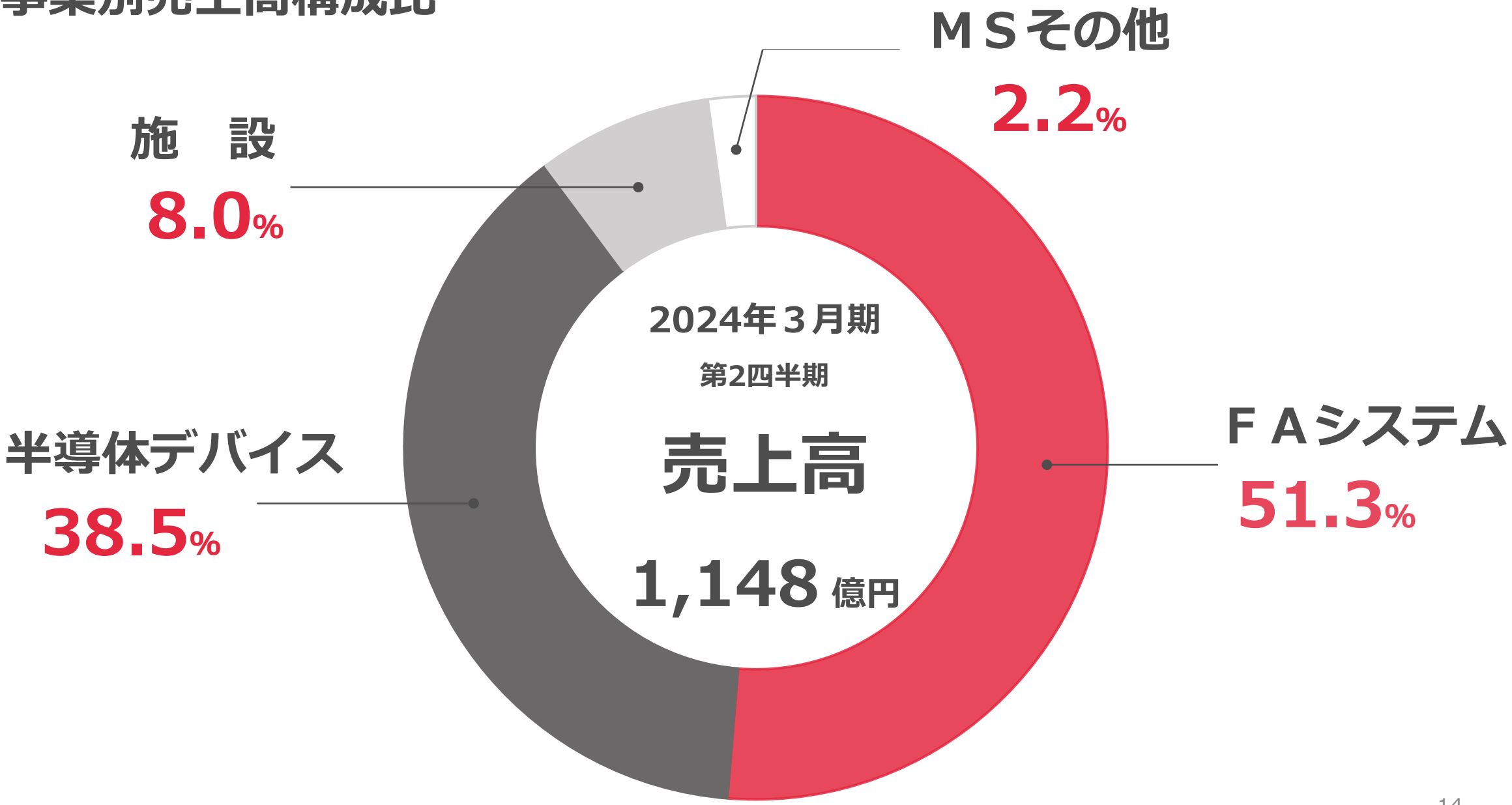
第2四半期として
過去最高!!

半導体デバイス事業
99.2 %

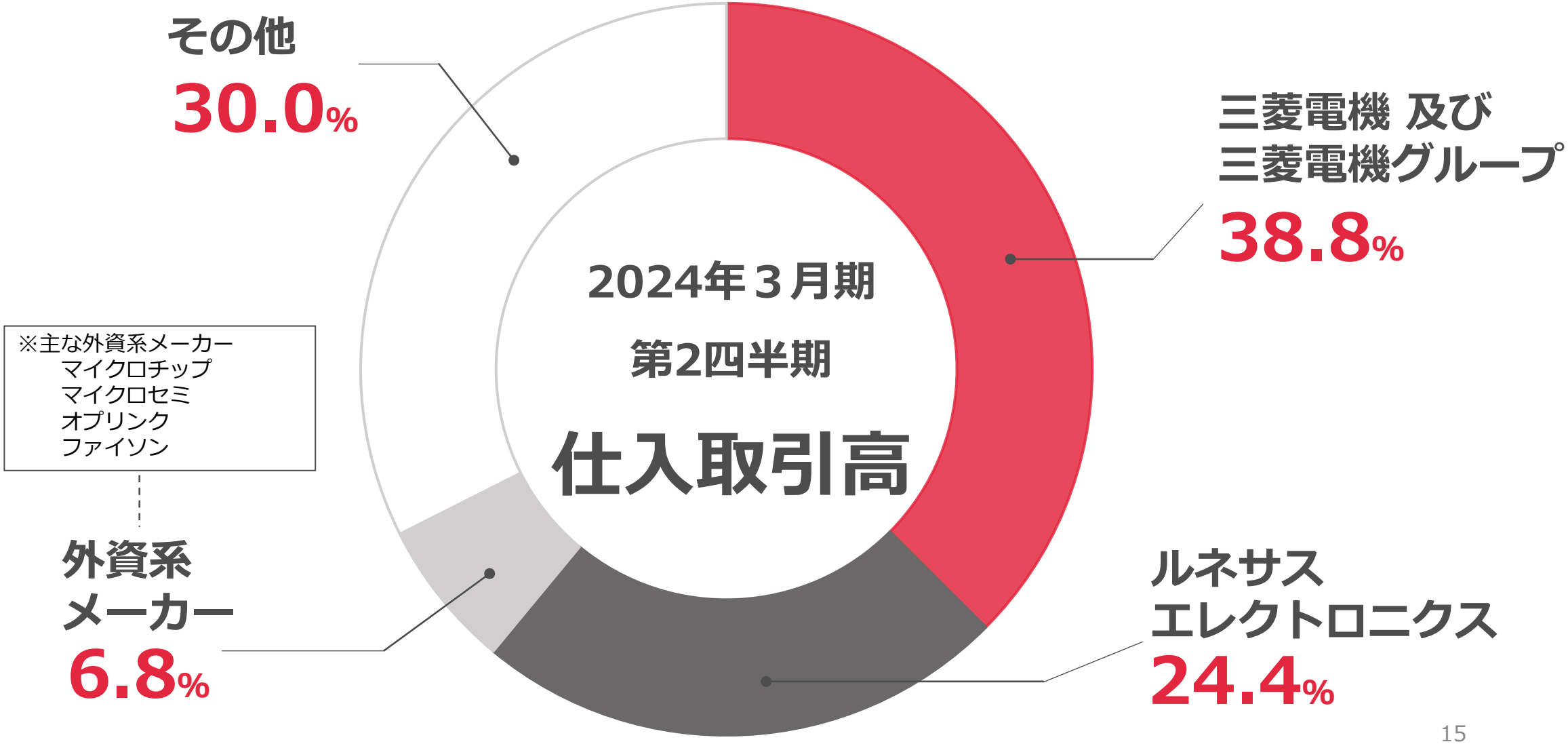
ＦＡシステム事業
109.3 %

第2四半期として
過去最高!!

事業別売上高構成比


ＭＳその他
2.2%
施　設
8.0%
2024年３月期
第2四半期
売上高
1,148 億円
ＦＡシステム
51.3%
半導体デバイス
38.5%

仕入先別構成比


その他
30.0%
三菱電機 及び
三菱電機グループ
38.8%
2024年３月期
第2四半期
仕入取引高
※主な外資系メーカー
マイクロチップ
マイクロセミ
オプリンク
ファイソン
外資系
メーカー
6.8%
ルネサス
エレクトロニクス
24.4%

財務状態（連結貸借対照表）

単位：百万円

資産の部	23年3末	23年9末	増減
流動資産合計	124,523	139,926	15,403
現金及び預金	11,596	12,638	1,042
受取手形及び売掛金	74,428	77,685	3,257
商品	34,000	43,500	9,500
その他	4,497	6,103	1,606
固定資産合計	29,112	31,888	2,776
有形固定資産	5,474	6,002	528
無形固定資産	649	764	115
投資その他の資産合計	22,987	25,122	2,135
(内) 投資有価証券	(20,675)	(22,706)	(2,031)
(内) その他	(2,310)	(2,416)	(106)
資産合計	153,635	171,815	18,180

自己資本比率: 23/3末 55.1%、 23/9末 51.1%

負債の部	23年3末	23年9末	増減
流動負債合計	65,829	80,228	14,399
支払手形及び買掛金	49,833	59,366	9,533
短期借入金	6,792	12,318	5,526
その他	9,202	8,542	△660
固定負債合計	3,165	3,738	573
長期借入金	89	28	△61
退職給付に係る負債	616	623	7
その他	2,458	3,085	627
負債合計	68,994	83,966	14,972
純資産の部			
株主資本合計	77,020	78,280	1,260
資本金	5,874	5,874	0
資本剰余金	6,146	6,146	0
利益剰余金	65,057	68,318	3,261
自己株式	△58	△2,058	△2,000
その他の包括利益累計額	7,620	9,568	1,948
純資産合計	84,641	87,849	3,208
負債純資産合計	153,635	171,815	18,180

03 業績予想（2024年３月期）

2024年３月期 連結の業績予想

	2023年３月期	前回予想 2024年３月期	今回予想 2024年３月期	対前年増減	前年比
売　上　高	2,272 億円	2,230 億円	2,260億円	（▲12億円）	99.4%
営業利益	103	95	104	（＋1）	100.8
経常利益	110	100	110	（±0）	100.0
親会社株主に帰属する当期純利益	78	70	75	（▲3）	95.7
１株当たり当期純利益	313.91 円	282.04 円	304.96 円	▲8.95円	

当期の見通し

■環境 :コロナの影響が和らぐ中で経済活動の回復が見込まれるも、依然として先行き不透明な状況が続くと予測しております。

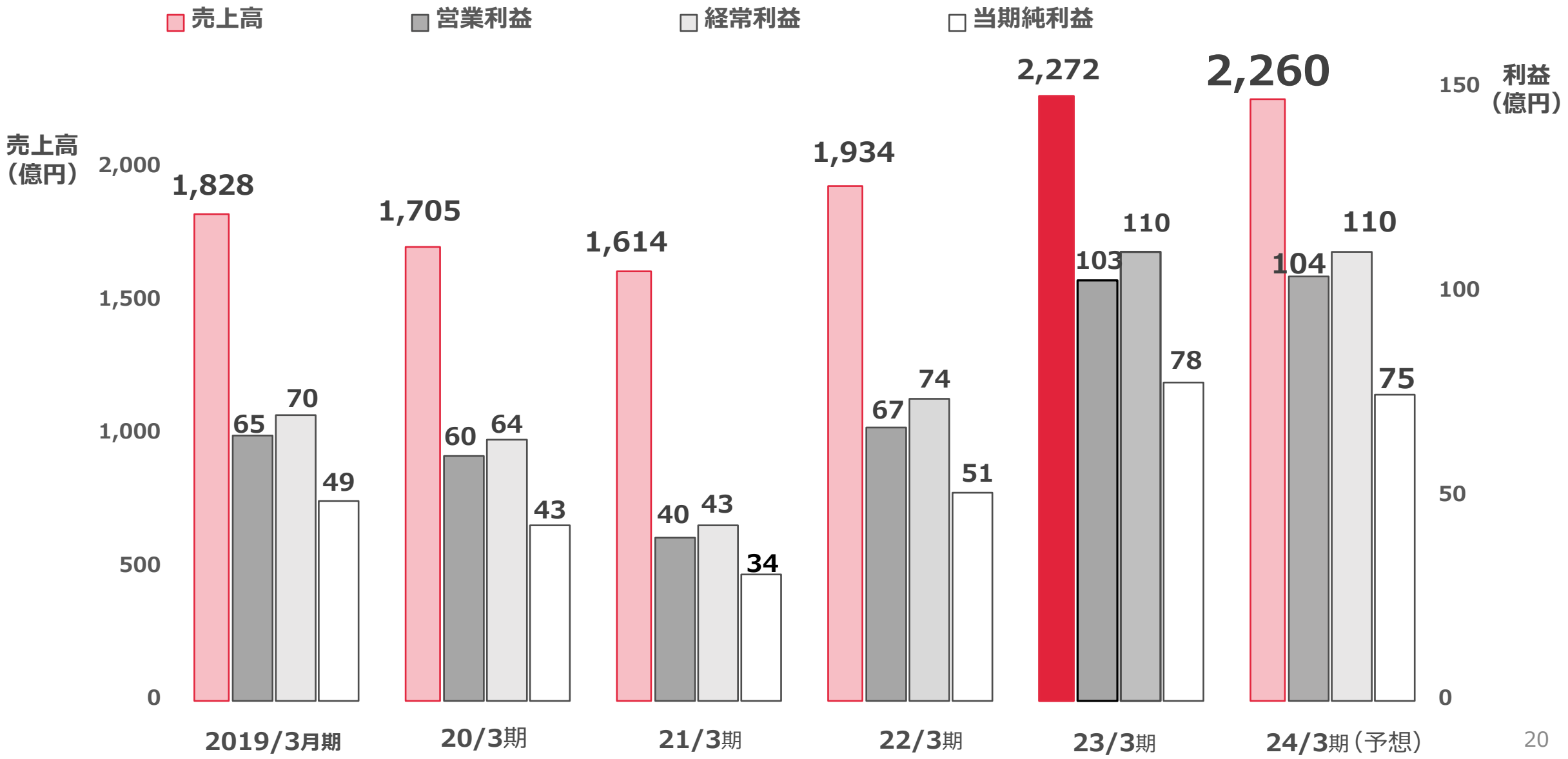
・ウクライナ、イスラエル情勢 ・米中経済対立 ・エネルギー資源価格の高騰

・為替の高止まり（米ドル/円） ・サプライチェーンの混乱

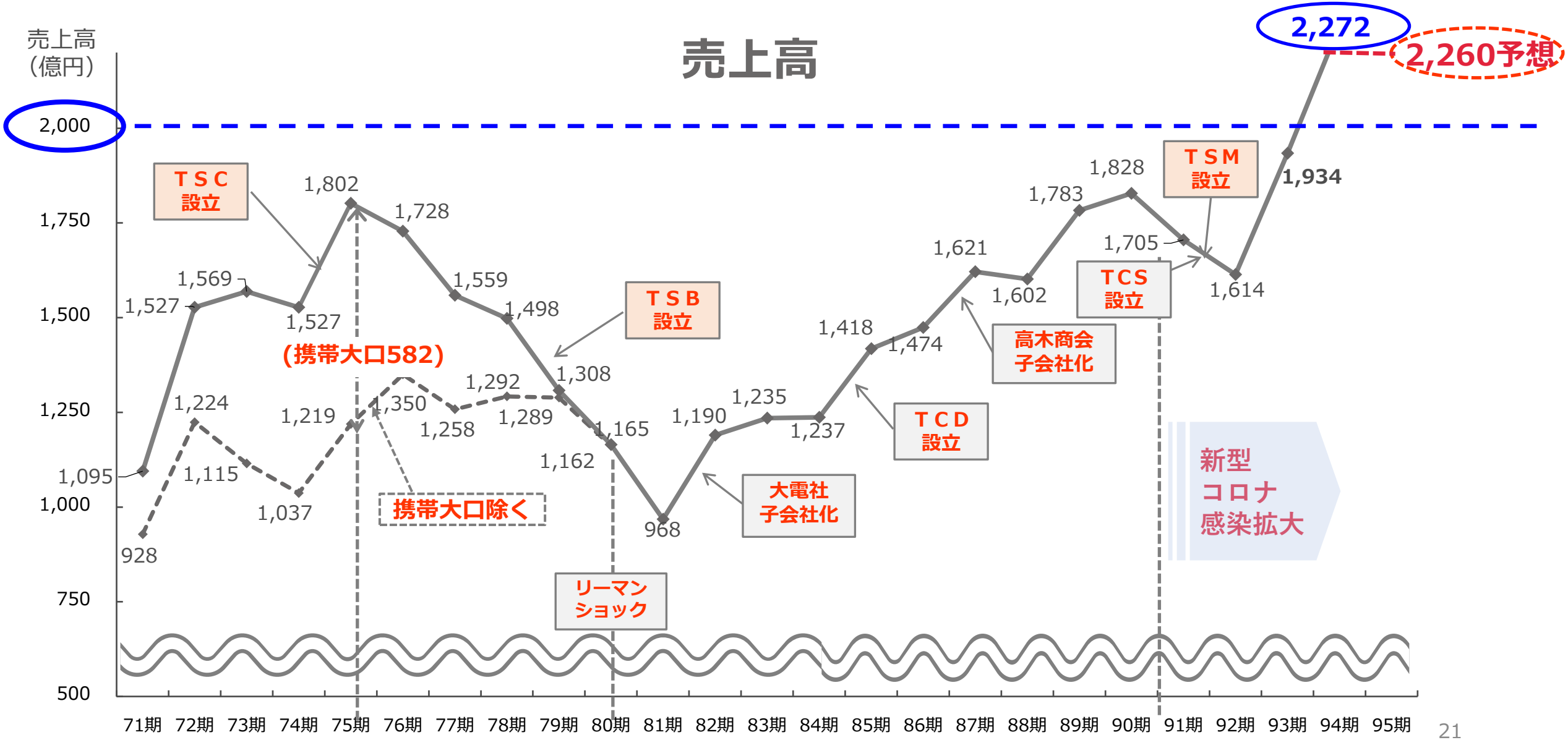
■方針（下半期）

- 顧客状況の把握に基づく**受注精度の向上**と、**万全の供給体制**
- 新中長期経営計画「NEW C.C.J2200」の**戦略取組をブラッシュアップ**
- **ITグランドデザインに基づくDX化**の推進

連結業績の推移

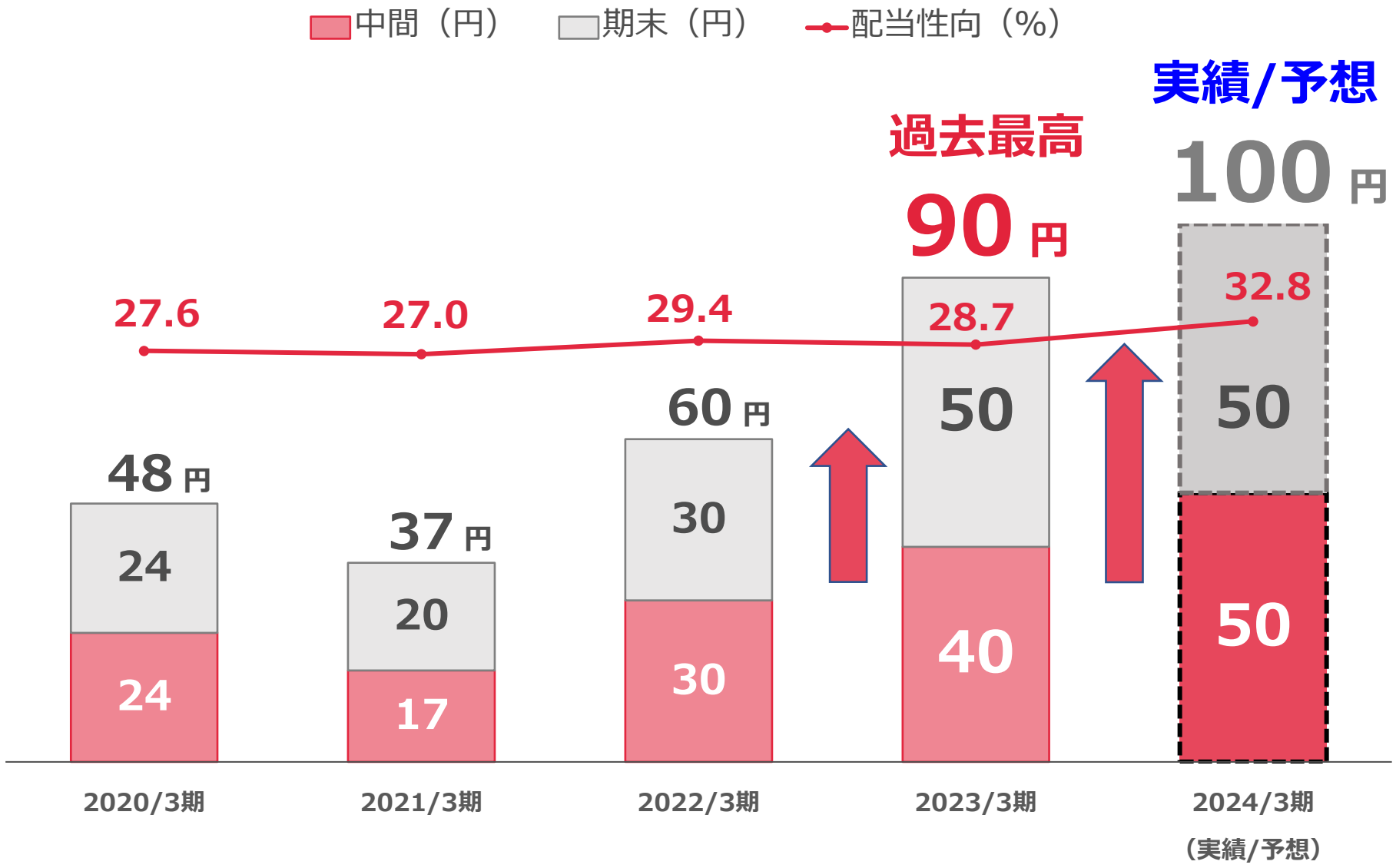

売上高
営業利益
経常利益
当期純利益
売上高（億円）
利益（億円）
2,000
1,500
1,000
500
0
150
100
50
0
1,828
65
70
49
1,705
60
64
43
1,614
40
43
34
1,934
67
74
51
2,272
103
110
78
2,260
104
110
75
2019/3月期
20/3期
21/3期
22/3期
23/3期
24/3期（予想）

売上高の推移（連結）

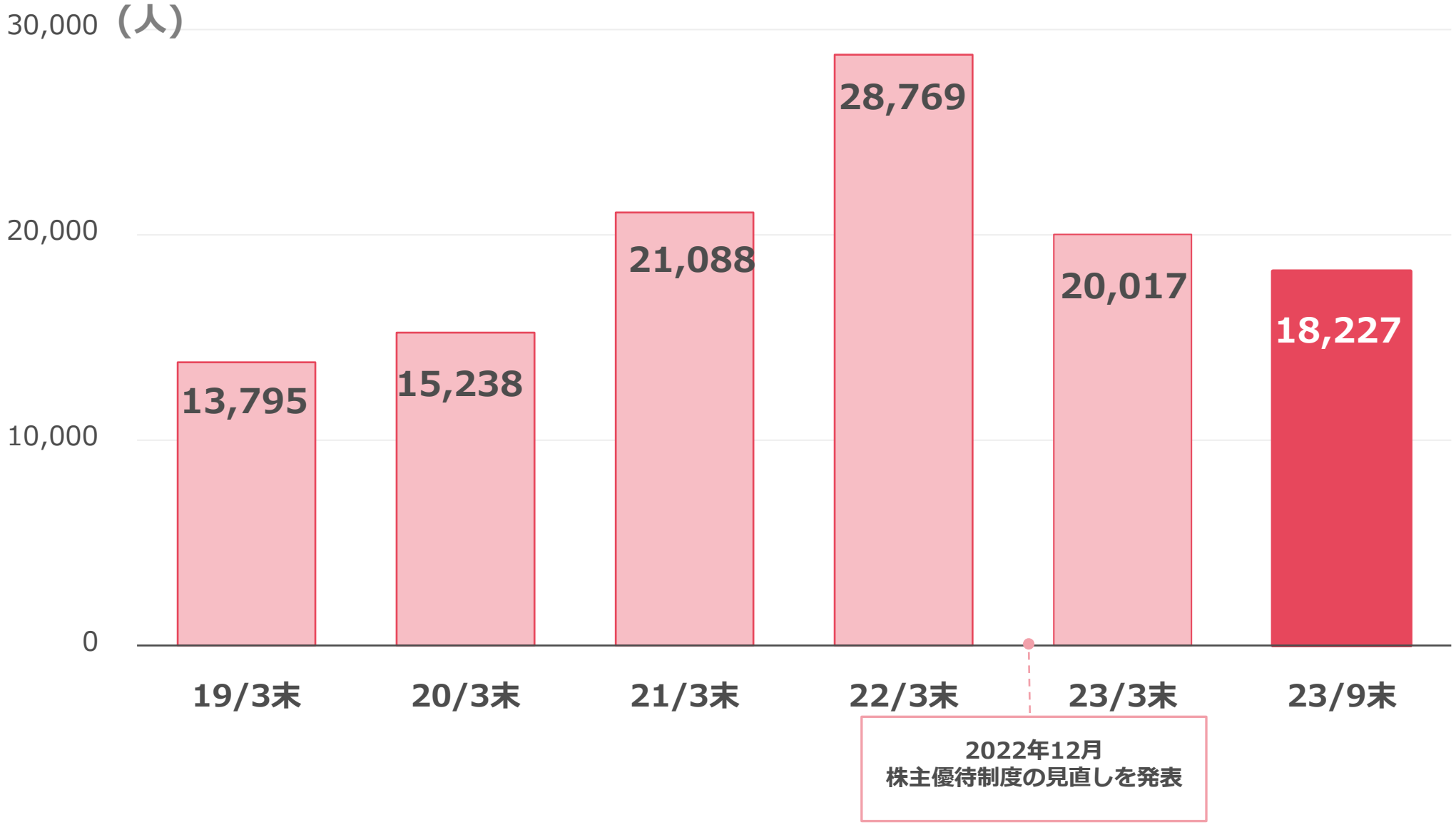

売上高
（億円）
売上高
2,000
1,750
1,500
1,250
1,000
750
500
2,272
2,260予想
ＴＳＣ
設立
ＴＳＢ
設立
ＴＳＭ
設立
ＴＣＳ
設立
ＴＣＤ
設立
高木商会
子会社化
大電社
子会社化
リーマン
ショック
新型
コロナ
感染拡大
(携帯大口582)
携帯大口除く
1,527
1,569
1,527
1,802
1,728
1,559
1,498
1,308
1,165
968
1,190
1,235
1,237
1,418
1,474
1,621
1,602
1,783
1,828
1,705
1,614
1,934
1,095
1,224
1,219
1,350
1,258
1,292
1,289
1,162
1,115
1,037
928
71期
72期
73期
74期
75期
76期
77期
78期
79期
80期
81期
82期
83期
84期
85期
86期
87期
88期
89期
90期
91期
92期
93期
94期
95期

04 株主還元/株式情報

配当金、配当性向の推移

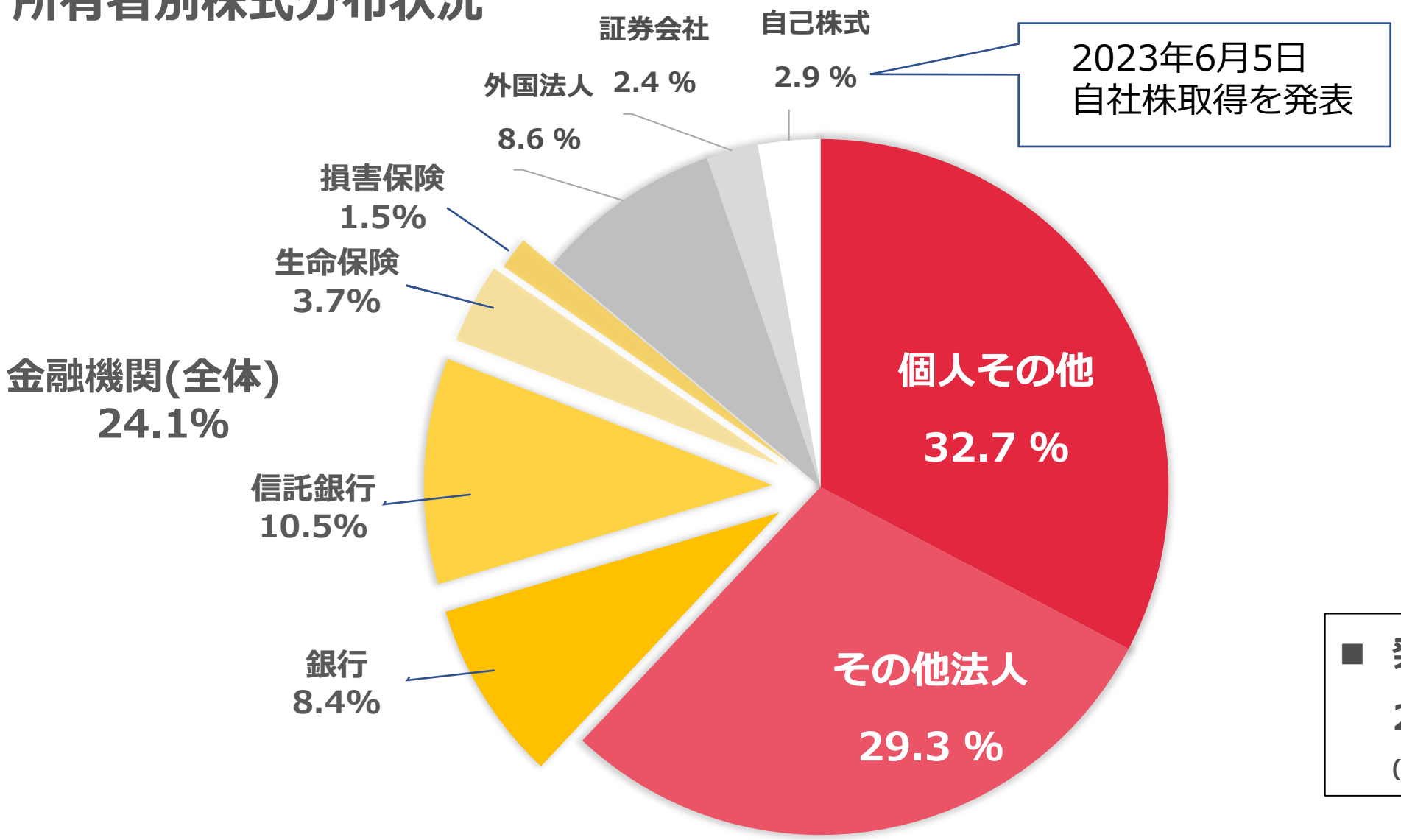

中間（円）
期末（円）
配当性向（%）
実績/予想
過去最高
90 円
100 円
27.6
27.0
29.4
28.7
32.8
48 円
24
24
37 円
20
17
60 円
30
30
50
40
50
50
2020/3期
2021/3期
2022/3期
2023/3期
2024/3期
（実績/予想）

株主数の推移


30,000
（人）
20,000
10,000
0
13,795
15,238
21,088
28,769
20,017
18,227
19/3末
20/3末
21/3末
22/3末
23/3末
23/9末
2022年12月
株主優待制度の見直しを発表

株式の概況（2023年9月末）

■ 所有者別株式分布状況



2023年6月5日
自社株取得を発表

■ 発行済株式総数
25,025 千株
（自己株式732千株含む）

自己株式取得を発表（2023年6月5日）

・2026年3月期までの3年間で300万株（発行済株式数の12%）の自己株式取得の方針を発表
・同期間の会計年度ベースにおいて総還元性向目標50%以上

■2023年度の取得方針

1. 取得する株式の種類　当社普通株式
2. 取得する株式の総数　100万株（上限）
（発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合　4.00%）
3. 株式の取得価額の総額　30億円（上限）
4. 取　得　期　間　2023年6月6日～2024年3月31日
5. 取　得　方　法　東京証券取引所における市場買付け

株主優待

■ 優待制度の内容

保有株式数及び継続保有期間に応じて

『クオ･カード』 を年１回贈呈

100株以上を３年以上継続保有の株主様を更に優遇

※年4回 (3・6・9・12月末)を基準に、同一株主番号で必要株数を継続して保持すること

■ 贈呈時期：毎年、定時株主総会終了後の６月下旬に発送

保有株式数	継続保有期間	
	1年以上 3年未満	3年以上
100株以上1,000株未満	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	3,000円分	5,000円分

05 新中長期経営計画「NEW C.C.J2200」

環境認識

事業環境

人口減 → 需要減 - - - (これまで通りのビジネス手法では) - - → 売上減少

お客様のニーズ

モノ → コト

単品販売ビジネスの価値低下

デジタル化

人材マーケット

ゼネラリスト → スペシャリスト

当社としても
変革
が必要

1. 新しい時代に適合した営業戦略
2. 体質改善のための基盤強化
   ①社内実務のOA化
   ②新しい時代を見据えた人事制度改革
3. 2,000億円企業になる

新しい時代に適合した営業戦略

各事業の目指す姿	重点取り組み
①ＦＡシステム事業	
『ＦＡといえば立花』 『Ｍ２Ｍと言えば立花』	Ｍ２Ｍビジネス、システムビジネス、 ロボットビジネス、 ３Ｄプリンタービジネス
②半導体デバイス事業	
高い技術力と営業力 強い半導体専門商社	品揃えの強化、保有技術力の ブラッシュアップ
③施設事業	
第三の柱として主要事業化	地域のサービスレベルの均一化
④ＭＳ事業	
「ものづくり商社」	アジアでの製造委託先開拓
⑤海外事業	
拠点のローカル化	アジアのローカルマーケット開拓

体質改善のための基盤強化

①社内実務のOA化

②新しい時代を見据えた
人事制度改革

単純作業からの脱却を図り、より高度な業務、
将来の発展のための業務へと人材の流動化を促進

・変化する時代に適合する人材の育成
・利益生産性を高め、高収益体質へと変革する
・ガバナンスに重点をおいて、経営体質を強化する

ITグランドデザインに基づくDX化の推進

経緯:社内基幹システムは導入後30年以上経過。
2025年の崖を乗り越え、
更にDX推進を強力に押し進めることが経営の最重要課題

新ITシステムの目的
全社レベルの情報の一元化/標準化

段階を追って2027年9月までに完了させる

- 全社共通データの整備/ 自動集計/ 見える化による集計業務のゼロ化
- オペレーションのデジタル化でマニュアル作業/ 重複作業の削減、ペーパレス化
- 営業/ 受発注操作/ システム開発の属人化排除
- 業務標準化によるガバナンス強化

06 トピックス

『サステナビリティ委員会』を2023年4月1日付で設置

サステナビリティ委員会について

- 当社は、「電機、機械、電子、情報を扱う技術商社として、優れた商品を最新の技術と共に産業界のお客様にお届けすることを通じて、社会の発展に貢献する」ことを経営理念に掲げています。
- この理念のもと、持続可能な環境や社会への貢献と持続的な企業価値向上が重要な経営課題であるとの認識に立ち、事業活動を通じて社会課題を解決し、持続可能な環境や社会の実現に貢献してまいります。
- 更に、当社独自のサービスやソリューションを提供することで、お客様の満足度向上とより良い社会の実現を目指します。

- **本委員会は、取締役会の監督・指示のもとでサステナビリティに関する基本方針の策定や重要課題（マテリアリティ）の特定と、それに基づく目標設定、それらの進捗管理を行うことで、全社的なサステナビリティへの取り組みを推進します。**

『サステナビリティ委員会』にて基本方針を策定

サステナビリティ基本方針

1．環境（E）

・省エネルギー・省資源に対応した環境配慮型製品の販売及びソリューションの提供を拡大します。

～環境ソリューションビジネスの推進

・事業活動を通じて、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等を積極的に推進し、環境負荷を低減します。

～環境負荷低減の取組み

2．社会（S）

・社員がやりがいを持って働き、自らの成長を実感できる会社であれば社員は幸せを感じられるという「人基軸経営」の考え方に立ち、自立型人財の育成に積極的に取組むとともに、労働環境の持続的向上を行います。

～人基軸経営

・地域社会と連携し、社会貢献活動を拡大してまいります。

～地域社会との連携

3．ガバナンス（G）

・法令、規則を遵守し、社会的規範・良識に基づいた企業活動を行います。

～コンプライアンス

・適切なリスクマネジメントを行い、全てのステークホルダーからの期待に誠実に応えてまいります。

～リスクマネジメント

『なごみ会』が2023年4月1日付で発足しました。

なごみ会の目的

■ 当社経営の基本方針である「人基軸経営」に則り、従業員並びに会社の成長と幸せこそ会社の重要な課題であるとの認識に立ち、これらを少しでも実行、実現していくことを目的として、「なごみ会」を発足させました。

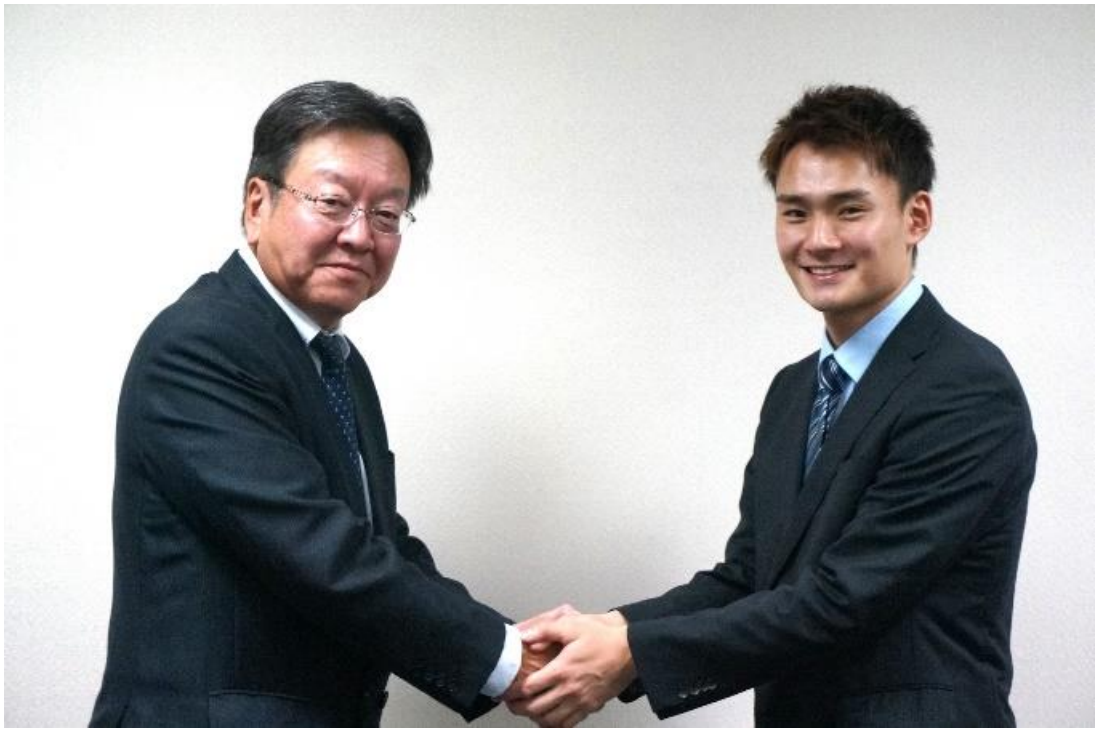
「なごみ会」：社員が当社を自慢に思える会社を目指して活動する会

1.「人基軸経営」に則り、当社で働く社員及び社員の家族の安寧と成長、和合の気風の醸成。
2. 社会貢献活動。学術・スポーツの振興、文化・芸術の維持継承に資する寄附。
3. 企業認知度向上のためのPR活動。

■ 今後、社員の自己研鑽の援助や社員親睦活動を鋭意推進してまいります。

フェンシング日本代表松山恭助選手とスポンサー契約を締結

- 2023年12月1日付でフェンシング フルーレ日本代表の松山恭助選手（株式会社JTB所属）とスポンサー契約を締結しました。
- 本契約により、松山選手のジャージやバッグに、立花エレテックロゴが掲出されます。



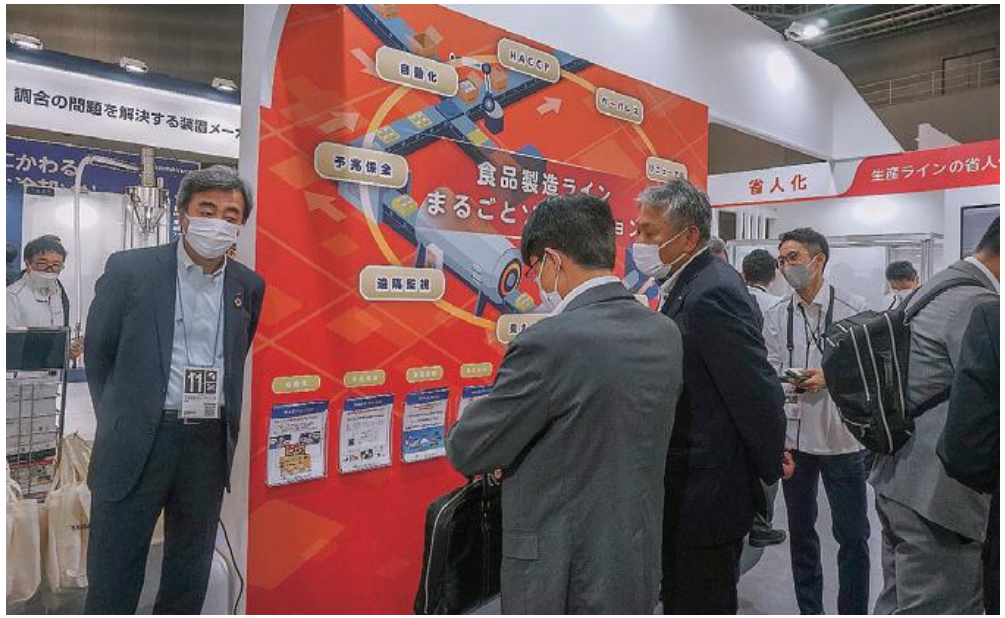
立花エレテックは、今後もスポーツを通じた文化振興活動にも貢献してまいります。

『FOOMA JAPAN 2023』に出展

世界最大級の食品製造総合展
FOOMA JAPAN 2023
INTERNATIONAL FOOD MACHINERY & TECHNOLOGY EXHIBITION

- 会期：2023年6月6日（火）～2023年6月9日（金）
- 場所：東京ビッグサイト
- 「IoT、M2Mシステム技術に強い」電機・機械・電子・情報の技術商社として、変革期にある食品業界のニーズに迅速に応える

食品業界の課題までトータルコーディネイト（見える化・省人化・リモートメンテナンス）



『Edge Tech＋2023』に8年連続で出展

■ 会期：2023年11月15日（水）～2023年11月17日（金）

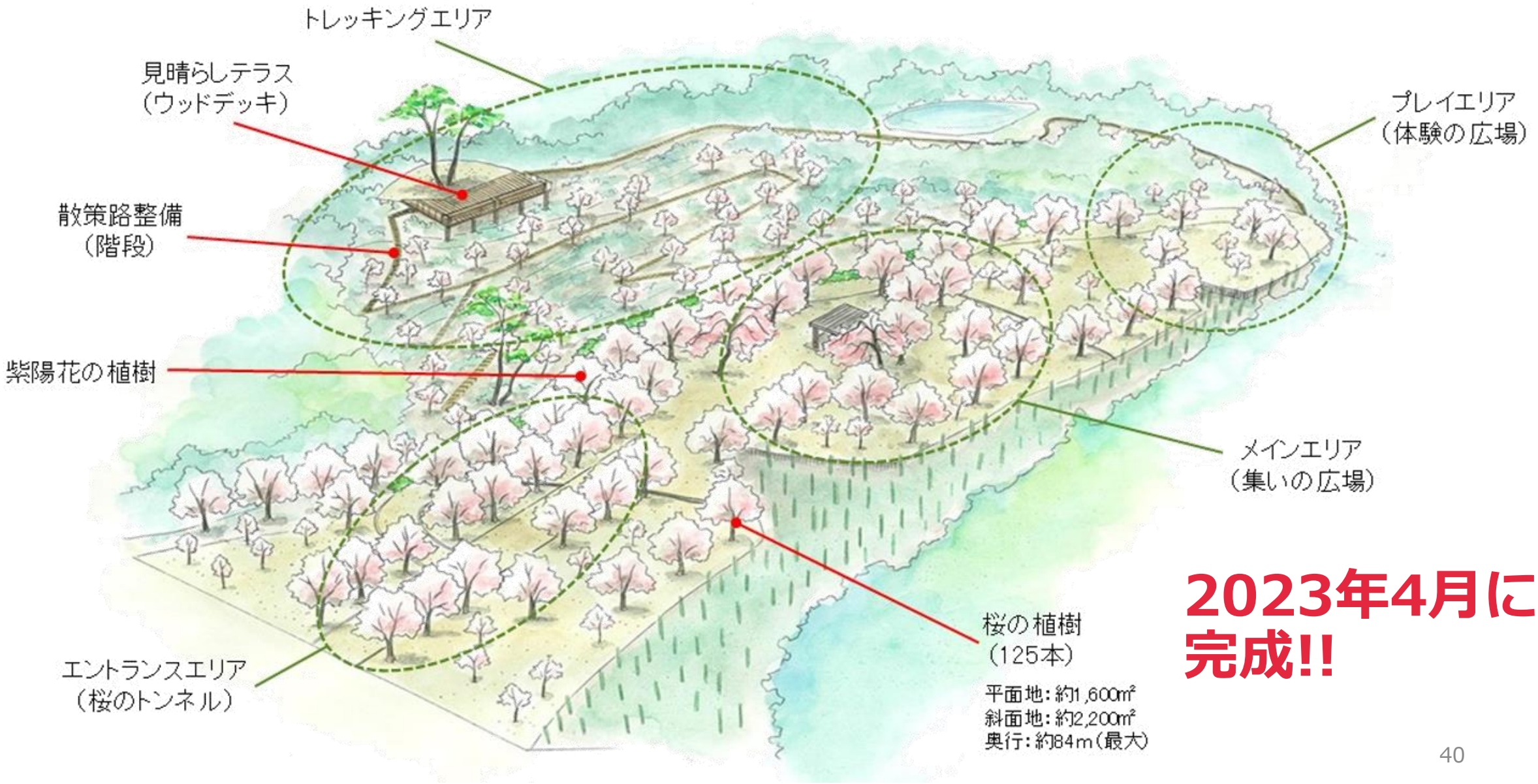
■ 場所：パシフィコ横浜

■ 当社保有技術の『EGNA』’えーがな’最新版の『EGNA-C』搭載の２４GHｚ帯
マイクロ波ドップラーモジュールによる非接触バイタルセンシングをメインに展示

■ **リアル**と**オンライン**で、全国のお客様と**つなぐ**ハイブリッド展示 に加え、**Webinarを併設**

里山保全活動　枚方市『なごみの里』Withコロナで活動を再開

株式会社立花エレテック



2023年4月に完成!!

枚方市の環境フェスタ で「なごみの里」活動をPR

当社は、10月29日枚方市主催の環境フェスタにおいて、「なごみの里」地域貢献活動をＰＲしました。当日は530人の来場があり、「なごみの里」では、当社音楽部による野外イベントライブも行い、多くの方々に足を運んでいただきました。

立花エレテックは、今後も環境保全活動を通じ貢献してまいります。

ご清聴いただき、誠にありがとうございました。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ先

㈱立花エレテック　広報ＩＲ部

Tel: (06)6539-2718　Fax: (06)6539-8820

当社ホームページはこちらから⇒

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることがあることをご承知おきください。